



Cisco Call Back

この章は、次の内容で構成されています。

- [Cisco Call Back の導入 \(P.4-2\)](#)
- [Cisco Call Back の動作について \(P.4-2\)](#)
- [コールバックの中断 / 再開機能 \(P.4-5\)](#)
- [Cisco Call Back のシステム要件 \(P.4-6\)](#)
- [インタラクションおよび制限事項 \(P.4-6\)](#)
- [Cisco Call Back のインストールと設定 \(P.4-8\)](#)
- [Cisco Call Back の設定チェックリスト \(P.4-9\)](#)
- [ユーザに対する Cisco Call Back の情報の提供 \(P.4-12\)](#)
- [Cisco Call Back のトラブルシューティング \(P.4-12\)](#)
- [関連項目 \(P.4-12\)](#)

Cisco Call Back の導入

Cisco Call Back 機能を使用すると、着信側が対応可能になったときに、Cisco IP Phone でコールバック通知を受信できます。自分の電話機と同じ Cisco CallManager クラスタ内、または QSIG トランクか QSIG 対応のクラスタ間トランクを経由するリモート PINX にある宛先の電話機に対するコールバックをアクティブ化できます。

コールバック通知を受信するには、ビジー音または呼び出し音が聞こえているときに CallBack ソフトキーを押します。ユーザは、リオーダー音が聞こえている間でも、コールバックをアクティブ化できます。これは、無応答タイマーが時間切れになるとトリガーされます。

この項では、Cisco Call Back 機能に関する次の情報について説明します。

- [Cisco Call Back の動作について \(P.4-2\)](#)
- [Cisco Call Back のシステム要件 \(P.4-6\)](#)
- [インタラクションおよび制限事項 \(P.4-6\)](#)
- [Cisco Call Back のインストールと設定 \(P.4-8\)](#)

Cisco Call Back の動作について

次の例では、対応不可であった電話機が対応可能になった後に、どのように Cisco Call Back が動作するかを説明します。

- 例：ユーザ A が対応不可のユーザ B にコールする。(P.4-3)
- 例：ユーザ A がユーザ B にコールする。ユーザ B は、コールバックがアクティブになる前に Call Forward No Answer (CFNA) をユーザ C に設定している。(P.4-3)
- 例：ユーザ A がユーザ B にコールする。ユーザ B は、ユーザ A がコールバックをアクティブ化した後に、ユーザ C にコールを転送するように設定している。(P.4-4)
- 例：ユーザ A とユーザ C が同時にユーザ B にコールする。(P.4-4)



(注) 発信側の電話機は、アクティブなコールバック要求を 1 つだけサポートできます。着信側の電話機は複数のコールバック要求をサポートできます。

Cisco Call Back は、発信側または着信側の名前または番号については、空白と 0～9 までの数字だけをサポートします。Cisco Call Back を使用する場合、発信側または着信側の名前や番号に # または * (シャープ記号またはアスタリスク) を含めることはできません。



(注) Cisco Call Back がアクティブになった後で発信側 (ユーザ A) がリセットされると、Call Back は自動的にキャンセルされます。ユーザ A は音声によるアラートを受け取らず、Callback 通知画面も表示されません。着信側 (ユーザ B) がリセットされた場合、Call Back はキャンセルされません。ユーザ B が対応可能になると、ユーザ A は音声によるアラートを受け取り、Callback 通知画面が表示されます。

例：ユーザ A が応対不可のユーザ B にコールする。

ユーザ A が、ユーザ A と同じ Cisco CallManager クラスタ、または別のクラスタにいるユーザ B にコールします。ユーザ B がビジーであるか、または応答しないため、ユーザ A は CallBack ソフトキーを使用して、Call Back 機能をアクティブにします。次のコールバック アクティベーションメッセージがユーザ A の電話機に表示されます。

```
CallBack is activated on <DN of User B>
Press Cancel to deactivate
Press Exit to quit this screen
```

ユーザ A が Exit ソフトキーを押します。

ユーザ B が応対可能になると（電話機がビジーからオンフックになるか、またはアイドル状態からオフフックとオンフック サイクルを完了すると）、ユーザ A は音声によるアラートを受け取り、次のメッセージがユーザ A の電話機に表示されます。

```
<DN of User B> has become available
Time HH:MM MM/DD/YYYY
Press Dial to call
Press Cancel to deactivate
Press Exit to quit this screen
```

ユーザ A は Exit ソフトキーを押してから、電話機をオフフックにしてユーザ B の電話番号をダイヤルします。ユーザ B がコールに対応します。ユーザ A とユーザ B がオンフックとなります。

ユーザ A が Callback ソフトキーを押すと、ユーザ A の電話機に次のメッセージが表示されます。

```
<DN of User B> has become available
Time HH:MM MM/DD/YYYY
Press Dial to call
Press Cancel to deactivate
Press Exit to quit this screen
```

**(注)**

Cisco Call Back 通知によりアクティブとなった電話番号に手動でダイヤルしても、Cisco Call Back のステータスには影響がありません。

例：ユーザ A がユーザ B にコールする。ユーザ B は、コールバックがアクティブになる前に Call Forward No Answer (CFNA) をユーザ C に設定している。

次のシナリオは、Call Forward No Answer に適用されます。

ユーザ B には、Call Forward No Answer が設定されているため、ユーザ A からのコールは、ユーザ C に転送されます。ユーザ A は、ユーザ C がビジーでなければ、コールバックを使用してユーザ C に接続し、ユーザ C がビジーであれば、ユーザ B に接続します。

ユーザ B またはユーザ C が応対可能（オンフック）になると、ユーザ A は音声によるアラートを受信し、ユーザ A の電話機にはこれらのユーザが応対可能であることを示すメッセージが表示されます。

例：ユーザ A がユーザ B にコールする。ユーザ B は、ユーザ A がコールバックをアクティブ化した後に、ユーザ C にコールを転送するように設定している。

次のシナリオは、Call Forward All、Call Forward Busy、および Call Forward No Answer をサポートします。

- ユーザ A は、自分と同じ Cisco CallManager クラスタ内に存在しているユーザ B にコールします。ユーザ B が応対不可であるため、ユーザ A は、コールバックをアクティブにします。ユーザ B がユーザ A に対して応対可能になる前に、ユーザ B はコールをユーザ C へ転送するように設定しました。ユーザ A がユーザ B またはユーザ C のどちらかにコールバックするかは、ユーザ B のコール転送の設定に依存します。
- ユーザ A は別のクラスタに存在するユーザ B にコールします。コールは、QSIG トランクを使用して接続されます。ユーザ B が応対不可であるため、ユーザ A はコールバックをアクティブにします。ユーザ A に対してユーザ B が応対可能になる前に、ユーザ B はユーザ C へのコール転送を設定しました。次のいずれかのイベントが発生します。
 - － Callback Recall Timer (T3) が満了していない場合、ユーザ A は常にユーザ B にコールバックします。
 - － Callback Recall Timer (T3) の期限が満了した後は、ユーザ A がユーザ B またはユーザ C のどちらかにコールバックするかは、ユーザ B のコール転送の設定に依存します。



ヒント ユーザ B が応対可能であることをシステムがユーザ A に通知すると、タイマーが起動します。割り当てられた時間中にユーザ A がコールバック コールを完了しない場合、システムはコールバックをキャンセルします。コールバックがキャンセルされた後でも、ユーザ A の電話機には、ユーザ B が応対可能であるというメッセージが表示されます。ユーザ A はユーザ B にダイヤルできます。

例：ユーザ A とユーザ C が同時にユーザ B にコールする。

ユーザ A とユーザ C が同時にユーザ B にコールします。ユーザ B が応対不可であるため、ユーザ A とユーザ C はコールバックをアクティブにします。ユーザ A とユーザ C の電話機には、コールバック アクティベーション メッセージが表示されます。

ユーザ B が応対可能になると、ユーザ A とユーザ C は両方とも音声によるアラートを受信します。また、両方の電話機にユーザ B が応対可能であるというメッセージが表示されます。ユーザ A またはユーザ C のどちらか先に Dial ソフトキーを押したほうが、ユーザ B に接続されます。

コールバックの中断 / 再開機能

Cisco Call Back には、Cisco Call Back を開始したユーザがビジー状態のときに、受信側ユーザが対応可能になってコールバック通知を受け取った場合に、コール完了サービスを中断する機能があります。その後、発信側ユーザが対応可能になると、そのユーザのコール完了サービスが再開されます。

発信側ユーザ（ユーザ A）が Cisco Call Back 機能をアクティブにした後、受信側ユーザ（ユーザ B）が対応可能になると、発信側の PINX が Suspend Callback APDU メッセージを送信し、ピアに対しユーザ A が再び対応可能になるまでユーザ B の監視を中断するように指示します。ユーザ A が対応可能になると、発信側 PINX は受信側に Resume APDU メッセージを送信し、ユーザ B の監視を再開するよう指示します。



(注)

Cisco Call Back では、クラスタ内およびクラスタ間 QSIG トランクの両方、または QSIG 対応クラスタ間トランクの中断 / 再開コールバック通知の開始機能がサポートされています。また、QSIG 対応 H.225 トランクと H.323 ゲートウェイに対する中断 / 再開通知機能もサポートされています。

次の例は、中断 / 再開機能の動作を示しています。

例：ユーザ A は、ユーザ B が対応可能となったときにビジー状態である。

ユーザ A が、ユーザ A と同じ Cisco CallManager クラスタ、または別のクラスタにいるユーザ B にコールします。ユーザ B がビジーであるか、または応答しないため、ユーザ A は CallBack ソフトキーを使用して、Call Back 機能をアクティブにします。次のコールバック アクティベーションメッセージがユーザ A の電話機に表示されます。

```
CallBack is activated on <DN of User B>
Press Cancel to deactivate
Press Exit to quit this screen
```

ユーザ A が Exit ソフトキーを押します。

ユーザ A は、ビジー トリガーを 1 に設定しています。

ユーザ A がビジーになります。ユーザ B が対応可能になります。

ユーザ A は音声によるアラートを受け取らず、コールバック通知画面も表示されません。

発信側（ユーザ A）が、受信側（ユーザ B）に Suspend Callback APDU メッセージを送信します。

ユーザ A が対応可能になります。発信側が受信側に Resume Callback APDU メッセージを送信します。この処理により、ユーザ B に対する監視が再開されます。

ユーザ B が対応可能になると、ユーザ A は音声によるアラートを受け取り、Callback 通知画面が表示されます。

Cisco Call Back のシステム要件

Cisco Call Back の動作には、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco CallManager 5.0 以降
- クラスタ内の少なくとも 1 台のサーバ上で稼働している Cisco CallManager サービス
- Cisco CallManager サービスと同じサーバ上で稼働している Cisco Database Layer Monitor サービス
- Cisco CallManager サービスと同じサーバ上で稼働している Cisco RIS Data Collector サービス
- 英語以外の電話ロケール、または国に固有のトーンを使用する場合は、Cisco IP Telephony Locale Installer
- Microsoft Internet Explorer または Netscape Navigator

インタラクションおよび制限事項



(注) 電話機の Call Back 機能ソフトキーおよびメッセージを英語以外の言語で表示する場合や、国に固有のトーンがユーザに聞こえるようにする場合は、Cisco IP Telephony Locale Installer のマニュアルの説明に従って、Locale Installer をインストールします。

Cisco IP Phone モデル 7970、7960、7940、7912、7905 および Cisco Communicator は、Cisco Call Back と CallBack ソフトキー（発信側および着信側の電話機で使用できます）をサポートします。コールバックは、Cisco IP Manager Assistant (IPMA) など、シスコ提供によるアプリケーションで使用できます。



(注) Cisco Call Back をサポートしている Session Initiation Protocol (SIP) 電話機は、Cisco IP Phone モデル 7970、7971、7961、および 7941 だけです。

次のデバイスにコールし、これらのデバイス上でコールバックをアクティブにできます。

- Cisco IP Phone 30 SP+、Cisco IP Phone 12 SP+、Cisco IP Phone 12 SP、Cisco IP Phone 12 S、Cisco IP Phone 30 VIP
- Cisco IP Phone 7902、Cisco IP Phone 7910、Cisco IP Phone 7935、Cisco IP Phone 7936
- Cisco VGC Phone (Cisco VG248 Gateway を使用)
- Cisco Skinny Client Control Protocol (SCCP) Phone モデル 7971、7970、7961、および 7941
- Cisco Session Initiation Protocol (SIP) Phone モデル 7970、7971、7961、および 7941
- Cisco Analog Telephone Adapter (ATA) 186 および 188
- 上記の電話機にコールを転送する CTI ルート ポイント

**ヒント**

Cisco CallManager エクステンション モビリティ ユーザがログインまたはログアウトすると、コールバックに関連付けられているアクティブなコールの完了は、自動的にキャンセルされます。電話機でコールバックがアクティブにされた後で着信側の電話機がシステムから削除された場合、発信者が Dial ソフトキーを押すとリオーダー音が聞こえます。ユーザはコールバックをキャンセルまたは再度アクティブにできます。

ボイスメール システムにすべてのコールを転送する場合は、コールバックをアクティブにできません。

SIP Phone での Cisco Call Back 通知に関する追加情報

SIP Phone 7960 と 7940 でのコールバック通知の動作は、SCCP Phone モデルとは異なります。Cisco SIP Phone モデル 7960 および 7940 は、オンフック / オフフック状態でのコールバック通知機能をサポートしていません。SIP Phone 7960 および 7940 で回線が使用可能となったことを Cisco CallManager が認識する方法は、その電話機から受け取る SIP INVITE メッセージを監視することだけです。電話機から SIP INVITE が Cisco CallManager に送信され、その電話機がオンフックになると、Cisco CallManager は SIP 7960/7940 のユーザに音声によるアラートを送り、コールバック通知画面を表示します。

コール転送機能、即時転送機能、およびボイスメール システム機能との機能インタラクション

次のコール状態は、Cisco CallManager Call Back が転送機能、即時転送機能、およびボイスメール システム機能と通信する際に予想される発信側の動作を示しています。

着信側（電話機 B）が、Forward All、Forward Busy、または Forward No Answer を使用して着信コールを転送するか、即時転送を使用してコールをボイスメール システムに転送する場合、発信側（電話機 A）は、コールバック機能に関する次のいずれかの状態になります。

- VM-Connected 状態：コールはボイスメール システムに接続されています。発信側の電話機（電話機 A）では、CallBack ソフトキーが非アクティブのままです。
- 元の着信側に関する Ring-Out 状態：着信側のボイスメール プロファイルにはボイスメール パイロットが含まれていません。着信側（電話機 B）では、iDivert ソフトキーを押すと、「Key Is Not Active」というメッセージが表示されます。発信側（電話機 A）では、元の着信側（電話機 B）に対するコールバックをアクティブにできる必要があります。
- ボイスメール システム機能と新しい着信側としてのボイスメール パイロット番号に関する Ring-Out 状態：コールに関して、ボイスメール システム障害またはネットワーク障害が発生しています。着信側（電話機 B）では、iDivert ソフトキーを押すと、「Temp Failure」というメッセージが表示されます。コール コンテキストには、ボイスメール パイロット番号が「新しい」着信側として含まれているため、発信側（電話機 A）では、元の着信側（電話機 B）に対するコールバックをアクティブにすることはできません。
- 通話中のボイスメール ポートと新しい着信側としてのボイスメール パイロット番号に関する Ring-Out 状態：コールに関して、ボイスメール ポートが通話中になっています。着信側（電話機 B）では、iDivert ソフトキーを押すと、「Busy」というメッセージが表示されます。コール コンテキストには、ボイスメール パイロット番号が「新しい」着信側として含まれているため、発信側（電話機 A）では、元の着信側（電話機 B）に対するコールバックをアクティブにすることはできません。

詳細については、次の項を参照してください。

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機能」
- [即時転送 \(P.11-1\)](#)

Cisco Call Back のインストールと設定

Cisco Call Back は、Cisco CallManager をインストールすると自動的にインストールされます。Cisco CallManager のインストールが完了したら、Cisco CallManager Administration で Cisco Call Back を設定する必要があります。その結果、電話機のユーザは Cisco Call Back 機能を使用できるようになります。

Cisco Call Back 機能を正しく構成するには、設定チェックリストのステップを確認します。次に設定するための要件を実行し、Cisco CallManager サービスをアクティブにします。次の項では、詳細な設定情報について説明します。

- [Cisco Call Back の設定チェックリスト \(P.4-9\)](#)
- [CallBack ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの作成 \(P.4-9\)](#)
- [デバイスプールでの CallBack ソフトキー テンプレートの構成 \(P.4-11\)](#)
- [電話機の設定における CallBack ソフトキー テンプレートの追加 \(P.4-11\)](#)
- [Cisco Call Back サービス パラメータの設定 \(P.4-12\)](#)

Cisco Call Back の設定チェックリスト

表 4-1 に、Cisco Call Back 機能を設定するためのステップを示します。

表 4-1 Cisco Call Back の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 電話機のソフトキーおよびメッセージを英語以外の言語で表示する場合、または国に固有のトーンがユーザに聞こえるようにする場合は、Locale Installer をインストールしていることを確認してください。	Cisco IP Telephony Locale Installer のマニュアル
ステップ 2 Cisco CallManager Administration で、Standard User ソフトキー テンプレートのコピーを作成し、次の状態に CallBack ソフトキーを追加します。 <ul style="list-style-type: none"> On Hook コール状態 Ring Out コール状態 Connected Transfer コール状態 	CallBack ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの作成 (P.4-9)
ステップ 3 Cisco CallManager Administration で、デバイス プールに新しいソフトキー テンプレートを追加します。	デバイス プールでの CallBack ソフトキー テンプレートの構成 (P.4-11)
ステップ 4 Phone Configuration ウィンドウで、次のいずれかの作業を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> 新しいソフトキー テンプレートを含むデバイス プールを選択する。 Softkey Template ドロップダウン リスト ボックスから新しいソフトキー テンプレートを選擇する。 	電話機の設定における CallBack ソフトキー テンプレートの追加 (P.4-11)
ステップ 5 Phone Configuration ウィンドウで、Cisco IP Phone に正しいユーザ ロケールが設定されていることを確認します。	『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定値」 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「電話機の設定値」 Cisco IP Telephony Locale Installer のマニュアル
ステップ 6 デフォルトの設定を使用しない場合は、Cisco Call Back サービス パラメータを設定します。	Cisco Call Back サービス パラメータの設定 (P.4-12)
ステップ 7 Cisco CallManager Serviceability で Cisco CallManager サービスがアクティブになっていることを確認します。	Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド

CallBack ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの作成

次の手順に従って、CallBack ソフトキーを含むソフトキー テンプレートを作成します。

手順

- ステップ 1** Cisco CallManager Administration で、**Device > Device Settings > Softkey Template** を選択します。
- Softkey Template Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** Find and List Softkey Template ウィンドウで、Standard User ソフトキー テンプレートを選擇します。

ステップ 3 Copy アイコンをクリックします。

Softkey Template Configuration ウィンドウに、新しい情報が表示されます。

ステップ 4 Softkey Template Name フィールドに、Standard User for Call Back など、テンプレートの新しい名前を入力します。

ステップ 5 Save ボタンをクリックします。

Softkey Template Configuration ウィンドウに、新しい情報が再表示されます。

ステップ 6 CallBack ソフトキーをテンプレートに追加するには、右上隅の Related Links ドロップダウン リストボックスで **Configure Softkey Layout** を選択し、**Go** をクリックします。

Softkey Layout Configuration ウィンドウが表示されます。CallBack ソフトキーは、On Hook、Ring Out、および Connected Transfer の各コール状態に追加する必要があります。

ステップ 7 CallBack ソフトキーを On Hook コール状態に追加するには、Select a Call State to Configure ドロップダウン リストボックスから **On Hook** を選択します。

Softkey Layout Configuration ウィンドウが再表示され、Unselected Softkeys リストと Selected Softkeys リストが表示されます。

ステップ 8 Unselected Softkeys リストで CallBack ソフトキーを選択し、右矢印をクリックして Selected Softkeys リストにソフトキーを移動します。

ステップ 9 Save ボタンをクリックして保存し、処理を続けます。

ステップ 10 CallBack ソフトキーを Ring Out コール状態に追加するには、Select a Call State to Configure ドロップダウン リストボックスから **Ring Out** を選択します。

Softkey Layout Configuration ウィンドウが再表示され、Unselected Softkeys リストと Selected Softkeys リストが表示されます。

ステップ 11 Unselected Softkeys リストで CallBack ソフトキーを選択し、右矢印をクリックして Selected Softkeys リストにソフトキーを移動します。

ステップ 12 Save ボタンをクリックして保存し、処理を続けます。

ステップ 13 CallBack ソフトキーを Connected Transfer コール状態に追加するには、Select a Call State to Configure ドロップダウン リストボックスから **Connected Transfer** を選択します。

ステップ 14 Softkey Layout Configuration ウィンドウが再表示され、Unselected Softkeys リストと Selected Softkeys リストが表示されます。

ステップ 15 Unselected Softkeys リストで CallBack ソフトキーを選択し、右矢印をクリックして Selected Softkeys リストにソフトキーを移動します。

ステップ 16 Save ボタンをクリックします。

デバイス プールでの CallBack ソフトキー テンプレートの構成

次の手順に従って、Call Back ソフトキー テンプレートをデバイス プールに追加します。すべてのユーザが CallBack ソフトキーを使用できるようにする場合、または Call Back 機能を持つユーザ用にカスタマイズしたデバイス プールを作成する場合は、テンプレートをデフォルトのデバイス プールに追加します。

手順

ステップ 1 Cisco CallManager Administration で、**System > Device Pool** を選択します。

Find and List Device Pool ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Default のデバイス プール、または Device Pools リストに表示された、作成済みのいずれかのデバイス プールを選択します。

ステップ 3 Softkey Template フィールドのドロップダウン リスト ボックスから、CallBack ソフトキーを含むソフトキー テンプレートを選択します（このテンプレートをまだ作成していない場合は、[P.4-9](#) の「[CallBack ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの作成](#)」を参照してください）。

ステップ 4 Save ボタンをクリックします。

Reset を押してデバイス プールの設定を更新するよう、ダイアログボックスにメッセージが表示されます。

電話機の設定における CallBack ソフトキー テンプレートの追加

次の手順に従って、Call Back ソフトキー テンプレートをユーザごとの電話機に追加します。

手順

ステップ 1 Cisco CallManager Administration で、**Device > Phone** を選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ソフトキー テンプレートを追加する電話機を検索します。『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「電話機の検索」を参照してください。

ステップ 3 次のいずれかの手順を実行します。

- Device Pool ドロップダウン リスト ボックスから、新しいソフトキー テンプレートを含むデバイス プールを選択します。
- Softkey Template ドロップダウン リスト ボックスから、CallBack ソフトキーを含む新しいソフトキー テンプレートを選択します。

ステップ 4 Save ボタンをクリックします。

Reset を押して電話機の設定を更新するよう、ダイアログボックスにメッセージが表示されます。

Cisco Call Back サービス パラメータの設定

Cisco Call Back サービス パラメータを設定するには、Cisco CallManager Administration の **Service > Service Parameters** にアクセスします。Cisco CallManager サービスが実行されているサーバを選択してから、Cisco CallManager サービスを選択します。

Cisco Technical Assistance Center の指示があった場合を除き、デフォルトのサービス パラメータ設定の使用をお勧めします。Cisco Call Back には、Callback Enabled Flag、Callback Audio Notification File Name、Connection Proposal Type、Connection Response Type、Call Back Request Protection T1 Timer、Callback Recall T3 Timer、Callback Calling Search Space、No Path Preservation、Set Private Numbering Plan for Callback などのサービス パラメータがあります。これらのパラメータの詳細については、Service Parameter ウィンドウの上隅に表示されている疑問符ボタンをクリックします。

ユーザに対する Cisco Call Back の情報の提供

『Cisco IP Phone 7960/7940 シリーズユーザガイド』に、Cisco IP Phone の Call Back 機能の使用方法が記載されています。このガイドは、電話機に表示されている疑問符ボタンのヘルプと併せてお読みください。

Cisco Call Back のトラブルシューティング

Cisco CallManager Serviceability Trace Configuration and Real-Time Monitoring Tool を使用して、コールバックに関する不具合をトラブルシューティングします。詳細については、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

追加情報

P.4-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキーテンプレートの設定」
- 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「デバイス デフォルトの設定」
- 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「サービス パラメータの設定」
- 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「Cisco IP Phone の設定」
- Cisco CallManager アドミニストレーションガイド
- Cisco CallManager システム ガイド
- Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド
- Cisco CallManager Serviceability システム ガイド
- Cisco CallManager トラブルシューティング ガイド
- Cisco IP Phones 7960/7940 シリーズユーザガイド
- Cisco IP Phone アドミニストレーションガイド for Cisco CallManager
- Cisco IP Telephony Locale Installer の使用方法